紡ぐ
くらしの
情報誌

バリバリ通信

2026 SPRING
VOL.131

生命の輝きに癒され ゆるやかな時を歩く

「愛媛県立とべ動物園」
愛媛県　伊予郡砥部町（いよぐんとべちょう）

ホッキョクグマのピース（メス）は
とべ動物園のアイドル。

母親のリカ、媛（ひめ）・砥愛（とあ）
の2頭の子ゾウが暮らしている。

写真提供／愛媛県立とべ動物園

アフリカストリートのサバンナにはキリン、
シマウマ、ダチョウなどが一緒に暮らしている。

トラはネコ科最大の動物。

ビルマニシキヘビのまつりくんの背中にはハート
マークが。見つけたら幸せになれるかも？

コガタフラミンゴ／毎年冬から春にかけて
踊るフラミンゴダンスはとても美しい。

写真提供／愛媛県立とべ動物園

マレーバクの親子／生後3か月頃までは
イノシシの仔のように縦縞が見られる。

写真提供／愛媛県立とべ動物園

愛媛県中予地方に位置する砥部（とべ）町。松山市中心部から車で三十分ほど緩やかな山あいへと向かう道の先に、「愛媛県立とべ動物園」はある。豊かな自然に抱かれるように広がる園内は、西日本有数の規模を誇り、約百四十六種、六百点以上の動物たちが暮らしている。

ゲートをくぐると、遠くから響くアシカの鳴き声や、チンパンジーたちのにぎやかな声が風に乗って運ばれてきた。視界いっぱいに広がる緑と相まって、ここが単なる展示施設ではなく、一つの生態系の舞台であることを実感させてくれる。

園内はアフリカストリートやアジアストリートなど、地域ごとにゾーニングされており、歩みを進めるごとに、まるで世界を旅するように動物たちと出会える構成になっている。気の向くままに道を選び、時にはベンチでひとやすみするのも心地よい。山の起伏をそのまま生かした広大な敷地は、いわゆる都市型動物園のにぎわいとは異なり、自然の中に溶け込むような落ち着きを感じさせる。

とべ動物園を語る上で欠かせない存在が、ホッキョクグマのピースである。一九九九年に生まれ、国内で初めて人工哺育に成功したホッキョクグマとして、一躍全国的な注目を集めた。母親が育児困難なため命の危機に瀕していた小さな個体を、飼育員が自宅に連れ帰り、文字通り親となって育て上げた物語は、今も多くの人の記憶に残っている。ピースは二十六歳。高齢期に差し掛かりながらも、その姿は穏やかで力強い。二年前からは健康維持のためにアザラシオイルを取り入れているそうで、その影響もあってか、白い毛並みはつややかさを保ち、光を受けてやわらかく輝いて見える。母親のバリーバも三十五歳となった今なお健在で、親子二代にわたる長寿は、飼育員たちの丁寧なケアの積み重ねの賜物だろう。

とべ動物園では、来園者が何度でも足を運びたくなる工夫が随所に施されている。通年開催のスタンプラリーも、園内を巡る楽しみを広げる仕掛けのひとつだ。「キリンの瞳に大接近」は、普段入ることのできないキリンの寝室（二階）からキリンと同じ目線で対面できる人気企画。毎月実施される「園内まったりお散

キリンはサバンナの見張り役。

ピューマは生後半年ほどまでは体に斑点が
あるが、成長すると単色の毛並みになる。

写真提供／愛媛県立とべ動物園

正面ゲート

「愛媛県立とべ動物園」

〒791-2191 愛媛県伊予郡砥部町上原町240
TEL 089-962-6000
開園時間／9時から17時（入園は16時30分まで）
休園日／月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）
年末年始（12月29日～1月1日）

入園料金（個人料金）／大人（18歳以上高校生除く）600円　高齢者（65歳以上）300円
高校生（15歳から17歳）200円　小中学生（6歳から14歳又は中学生以下）100円
幼児（6歳未満）無料　障害者手帳等をお持ちの方無料

四国ガス燃料
https://www.shikoku-gasnen.co.jp/

飼育員手作りのポップや案内版には動物への愛情がたっぷり込められている。

写真提供／愛媛県立とべ動物園
水槽を泳ぐフンボルトペンギン

写真提供／愛媛県立とべ動物園
シセンレッサーパンダ／人気の「丸顔王子」こと「砥々丸（ととまる）」

歩」では、元園長の案内でまったり歩きながら、飼育の裏話や動物たちの意外な一面に触れることができる。夏には開園時間を夜九時まで延長する「夜の動物園」も開催され、昼間とは異なる動物たちの表情や、夜行性動物の活発な姿を観察できる特別な体験として人気を集めている。

園内を歩いていると、担当飼育員による手書きのポップや解説パネルが目に留まる。動物の特徴やちょっとした豆知識が、ユーモアを交えたぬくもりのある言葉で綴られており、思わず足を止めて読み込んでしまう。そこには、日々動物たちと向き合っているからこそ生まれる視点と、深い愛情がにじんでいる。一枚一枚の言葉から伝わってくるのは、動物たちとの関係性の深さだ。一頭一頭、確かな個性を持つ存在として大切に扱われていることが伝わってきて、自然と口角が緩んだ。

自然と人、動物と人との距離感を丁寧に設計したこの空間は、何度訪れても新しい表情を見せてくれる。子ども連れの家族はもちろん、大人が一人で訪れても十分に楽しめる。むしろ、大人にこそ訪れてほしい。歩みを止めて動物たちの姿を眺めていると、時間の流れがいつの間にか緩やかになっていることに気づくだろう。園を後にする頃、日常からほんの一歩、離れた場所に立っているような不思議な感覚が残った。

動物園を出て、町へ向かうと、風景は再び人の営みに近づいていく。住宅地の中に白壁や窯を備えた建物が点在し、砥部町が長く受け継いできた「砥部焼」の里であることを静かに語りかけてくる。砥部焼は、江戸時代後期に始まったとされる磁器で、厚手で丈夫、日常使いに耐える実用性の高さが特徴だ。白地に呉須で描かれる素朴で伸びやかな文様は、派手さはないが、使うほどに暮らしに馴染んでいく。町内には今も多くの窯元が点在し、そのいくつかは見学や体験を受け入れている。器は、旅の記念品であると同時に、日常へと連れ帰ることのできる砥部町の記憶となる。

とべ動物園に流れる命の時間と、砥部焼の器に込められた職人の手仕事。形は違えど、そこには「変わらないものを守りながら、誠実に更新されてきた歴史」という共通の旋律が流れている。自然の中で動物たちの姿に癒やされ、町に下りてお気に入りの器を探してみる。そのひとときは、日常のスピードをほんの少し緩め、リフレッシュを運んでくれる。砥部を離れる頃、心に残る柔らかな余韻。それは、またいつかこの場所へ戻ってきたくなる、静かな約束のような気がした。

お立ち寄りスポット

砥部焼伝統産業会館

砥部焼の歴史を学ぶことができる施設。砥部焼の歴史的資料をはじめ、製造過程を説明したパネルや作品を見ることができる。1Fロビーでは窯元の作品を展示・販売している。

愛媛県伊予郡砥部町大南335番地 TEL089-962-6600
開館時間／9時から17時
休館日／月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）
年末年始（12月29日～1月1日）
入館料／（一般）大人300円　65歳以上200円
高校生・大学生200円　小学生・中学生100円

会館のすぐ近くには、オール砥部町ロケの映画「未来へのかたち」に登場する、高さ約4m、直径約1mの巨大な「砥部焼聖火台モニュメント」が設置されている。

おみやげ紹介